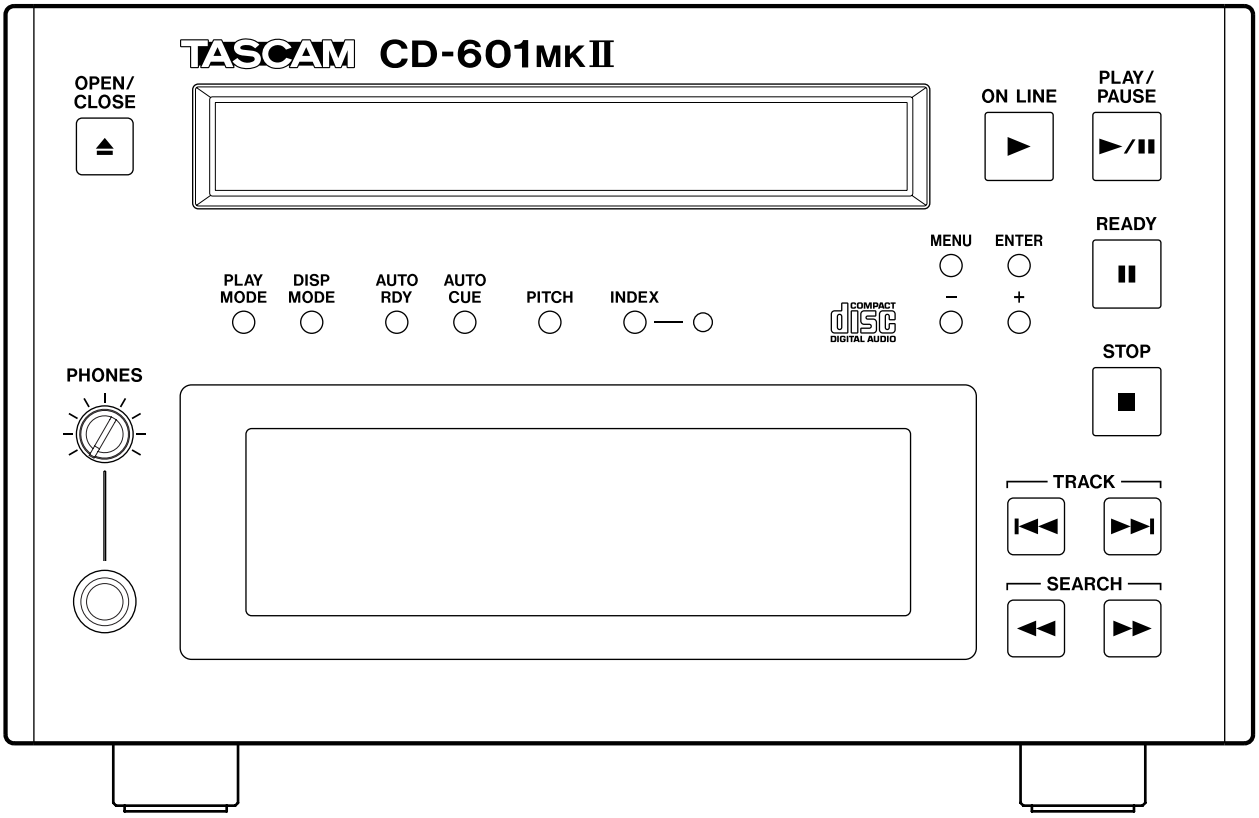
D00811700A

TASCAM
TEAC Professional Division

CD-601MKII

CD PLAYER

取扱説明書



安全にお使いいただくために

この取扱説明書への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示の意味

⚠警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

⚠	△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
⃠	⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。 図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
●	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠警告

万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店またはティアック修理センターに修理をご依頼ください。

万一機器の内部に異物や水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店またはティアック修理センターに交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧（交流 100 ボルト）以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。

この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。

この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。

この機器の上に花びんや水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。

電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

この機器のカバーは絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センターにご依頼ください。

この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

⚠警告

万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

この機器を設置する場合は、壁から20 cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から1U以上、背面から10 cm以上のすきまを空けてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

⚠注意

オーディオ機器、スピーカー等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。

電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

ディスクトレイが閉まるときに手指をはさまれないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。

5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店またはティアック修理センターにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行なうと、より効果的です。なお、掃除費用についてはご相談ください。

次のような場所に置かないでください。火災、感電やけがの原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所
- 湿気やほこりの多い場所
- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所

電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグに容易に手が届くようにしてください。

移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行なってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行なってください。

もくじ

はじめに 5
特長 5
製品構成 5
設置場所についての注意 5
ラックマウントについて 5
バックアップメモリーについて 6
使用上の注意 6
CD（コンパクトディスク）の取扱い 6
各部の名称と機能 7
フロントパネル 7
表示窓 9
リアパネル 10
基本操作 11
オンライン再生とモニター再生 11
準備 11
再生モードを選ぶ 11
希望の１曲を頭から演奏する（シングルプレイ） 12
曲の途中から演奏する 13
キューポイントの自動登録 13
各トランスポートキーの動作詳細 14
READYキー 14
ON LINEキー 14
PLAY/PAUSEキー 14
STOPキー 14
再生する場所を選ぶ 15
トラックを選ぶ 15
インデックスを選ぶ 15
曲の途中をサーチする 15
メニュー操作 16
メニューの構成 16
メニュー操作の基本 17
メニュー設定の保存 18
メニュー設定のクリア 18
すべてのユーザーバンクをクリアする 18
ユーザーバンクごとにクリアする 18
再生に関する機能 19
プログラム再生 19
プログラムモードにする 19
プログラムを作成する 19
プログラムしたトラックを差し替える 19
プログラム曲を追加する 19
プログラム曲を削除する 19
プログラムをクリアする 19
オートキュー機能 19
オートキューレベルの設定 20
オートキューアップの設定 20
オートレディ機能 20
ピッチコントロール機能 20
インクリメンタルプレイ機能 20
出力に関する設定 21
オンライン出力用端子の設定 21
モニター出力用端子の設定 21
ステレオ／モノラル設定 21
出力レベル設定 21
その他の機能／設定 22
外部クロックを基準にする 22
フェールセーフ機能 22
トラックの終了予告を表示する 22
時間表示を切り換える 22
フレーム表示を消す 23
タイマープレイ機能 23
モーター積算時間を見る 23
外部コントロール 24
パラレルコントロール 24
フェーダースタート／ストップの設定 24
RC-601MKIIからのコントロール 25
本機操作の設定 25
RS-232Cによるコントロール 25
ボーレートの設定 25
仕様 26
エラーメッセージ一覧 27

はじめに

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みください。お読みになった後はいつでも手の届くところに大切に保管してください。

特長

CD-601MKIIは、放送局、ポストプロダクション、設備音響などのさまざまな業務で使用するための業務用CDプレーヤーです。以下のような特長があります。

- 別売のラックマウントトレイの使用により、ラックマウントが可能な3U、ハーフラックサイズ。
- 市販のオーディオCDのほか、CD-R、CD-RWディスクを使ったオーディオCDの再生が可能。
- XLR（バランス）とRCAピン（アンバランス）のアナログ出力端子、XLR（AES/EBU）とRCA（S/PDIF）のデジタル出力端子を装備。
- 本番用のオンライン再生とチェック／リハーサル用のモニター再生の２種類の再生モード。それぞれの再生信号を異なる出力端子から出力することが可能。
- 瞬時に再生が始まるインスタントスタート。
- オートキュー機能により、トラックの音声立ち上がりポイントでの待機が可能。
- １フレーム精度の頭出しが可能。
- インデックスサーチが可能。
- 通常の全曲再生のほかに、１曲だけ再生するシングル再生、任意の順番で再生するプログラム再生が可能。
- オートレディ機能により、トラック再生後に次のトラックの頭での自動待機が可能。
- インクリメンタルプレイ機能により、トラック再生を中断したときに次のトラックの頭で自動待機が可能。
- 本番再生中の誤操作を防止するフェールセーフ機能。
- 外部のワードクロック（44.1 kHz、48 kHz）に同期可能。48 kHzの外部クロックに同期中は、CDの再生信号をサンプリング周波数48 kHzでデジタル出力。
- ±12.5%のピッチコントロール機能。
- 電源オンで自動的にモニター再生がスタートするタイマープレイ機能。
- CDテキストの表示が可能。
- 外部からのコントロール用のパラレル端子を装備。フェーダースタート／ストップなどに対応可能。
- 外部からのコントロール用のシリアル（RS-232C）端子を装備。パソコンやエディターからのコントロールが可能。
- 別売のRC-601MKIIリモートコントロールユニットを接続することにより、操作性の向上と機能の拡張が可能。
- フロントパネルにモニター用のヘッドホン端子／レベルつまみを装備。

取扱説明書の用語について

この取扱説明書では、
オンライン再生待機状態を「**オンラインREADY**」、
モニター再生待機状態を「**モニターPAUSE**」と表記しています。

製品構成

本製品の構成は以下のとおりです。

- CD-601MKII本体　1
- 電源コード　1
- 取扱説明書（本書）　1
- 保証書　1

なお、本機を開梱する時、損傷を与えないよう慎重に行なってください。梱包箱と梱包材は後日輸送するときのために保管しておいてください。

付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合、当社までご連絡ください。

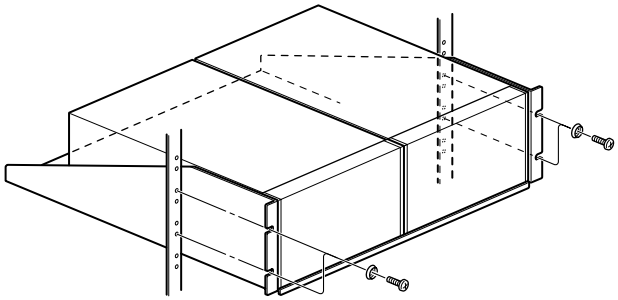
設置場所についての注意

次のような場所に設置しないでください。音質低下の原因、または故障の原因となります。

- ５度以上傾斜した場所
- 振動の多い場所や不安定な場所
- 窓際など直射日光が当たる場所
- 暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所
- 極端に温度が低い場所
- 湿気の多い場所や風通しが悪い場所
- チューナー、テレビやビデオデッキなどのそば
  映像の乱れや雑音の原因となることがあります。

ラックマウントについて

別売のRM-601　19インチ・ラックマウントトレイを使うことにより、EIA規格の19インチラックにCD-601MKIIを２台マウントすることができます。



- 本機の上に1U以上のスペースを、後ろに10cm以上のスペースを空けてください。

バックアップメモリーについて

以下の設定情報はCD-601MKIIのバックアップメモリーに記憶されますので、電源をオフにした後で再びオンにしたときに設定が再現されます。

- 再生モード
- 時間表示モード
- オートレディ機能のオン／オフ
- オートキュー機能のオン／オフ
- ピッチコントロール機能のオン／オフ
- ピッチコントロールの値
- インデックスサーチ機能のオン／オフ
- 各メニュー項目の設定(*)

(*)："USER"メニューが"PRE"に設定されている場合は、電源投入時は常にメニュー項目設定が初期設定になります。（→18ページ「メニュー設定の保存」）

使用上の注意

電源について

AC100V（50/60Hz）以外の電源には接続しないでください。

電源コードの抜き差しは、プラグを持って行なってください。

本体の手入れ

化学ぞうきんやベンジン、シンナー系の液体で本機を拭かないでください。表面を傷める原因となります。トップカバーやパネルの汚れは、薄めた中性洗剤液を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。

結露について

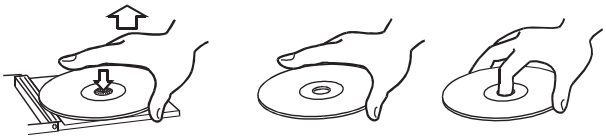
冬期など、本機を暖房中の室内に持ち込んだり、設置した部屋の暖房を入れた直後などには、本機内部に水滴（結露）がつき、正常に動作できないばかりでなく、ディスクや精密部品も傷めてしまうことがあります。結露が生じたときは、電源を入れて１～２時間そのまま放置してください。水滴がなくなり、正常に動作するようになります。本機を移動するときや使用しないときは、ディスクを取り出しておいてください。

CD（コンパクトディスク）の取扱い

本機はCD-DAフォーマットのCDを再生することができます。

市販のオーディオCD（120mm／80mm）だけでなく、正しくオーディオを記録したCD-R/CD-RWも使うことができます。

● ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を一度押して、ディスクの外周部分を手ではさむように持って取り出してください。



取り出し方　　コンパクトディスクの正しい持ち方

● 信号記録面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布で軽く内側中心から外側へ直角方向に拭いてください。ディスクの汚れは、音飛びの原因となりますので、いつもきれいに清掃し、ケースに入れて保管してください。

● レコードスプレー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどで絶対に拭かないでください。これらの化学薬品で表面が侵されることがあります。

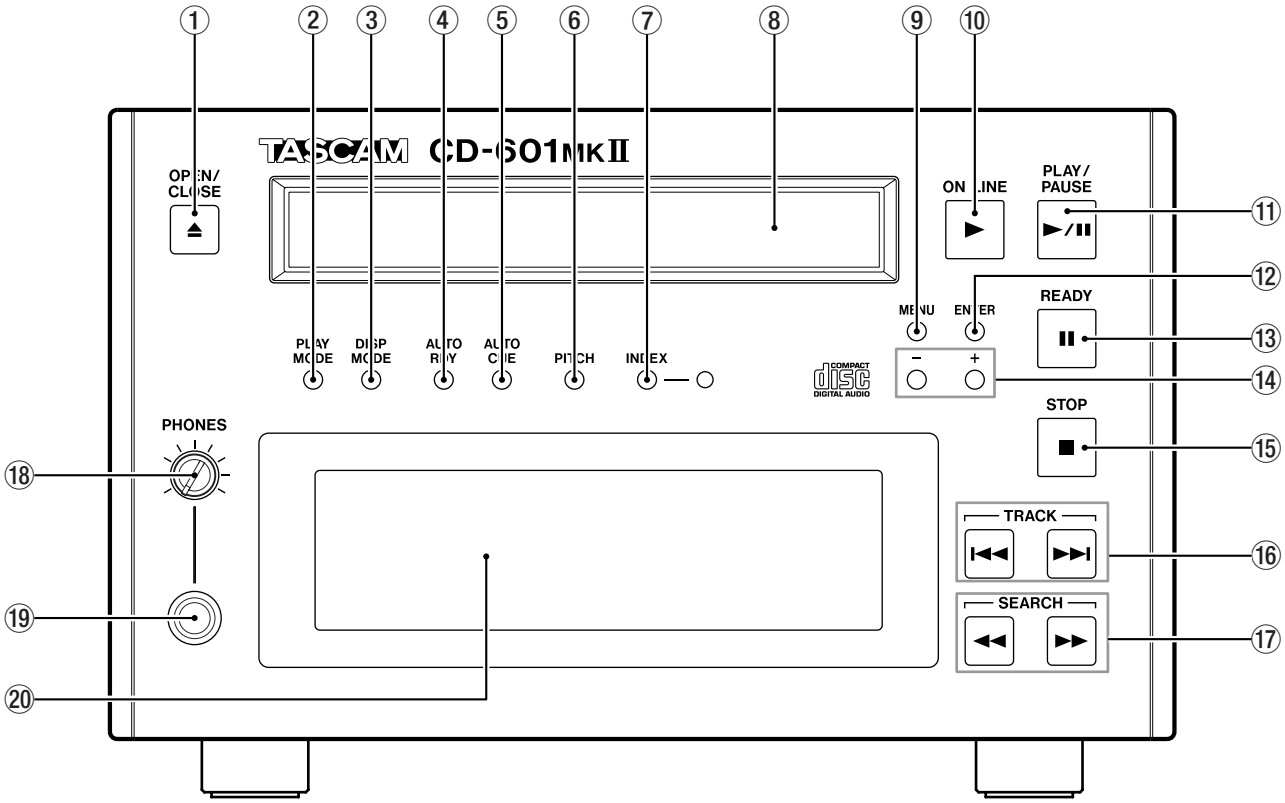
● 直射日光が当る場所や、高温多湿な場所に置かないでください。長時間放置すると、そりなどの原因となります。

● レーベル面に紙などを貼ったり、ボールペンなどで文字を書かないでください。

● ディスクにセロハンテープやレンタルCDのシールなどをはがしたあとがあるもの、またはシールなどから糊がはみ出しているものは、使用しないでください。そのままプレーヤーにかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。

各部の名称と機能

フロントパネル



① OPEN/CLOSEキー（⏏）

トレイを開閉します。

② PLAY MODEキー

再生モードを通常再生（全曲再生）、シングル再生、プログラム再生の中から選択します。

表示窓の再生モード表示部に現在の再生モードが表示されます。（→11ページ「再生モードを選ぶ」）

③ DISP MODEキー

押すたびに時間表示モードが切り換わります。
初期設定では「トラック経過時間」と「トラック残時間」の間で切り換わります。
メニューを使って、切り換える表示モードの種類を選ぶことができます。（→22ページ「時間表示を切り換える」）

④ AUTO RDYキー

オートレディ機能（トラックを再生後に次のトラックの頭で再生待機する機能）のオン／オフを切り換えます。オンのとき、表示窓に"A.READY"が点灯します。（→20ページ「オートレディ機能」）

⑤ AUTO CUEキー

オートキュー機能（おもにトラックサーチ時に、トラックの実際の音の立ち上がりポイントを検出して待機する機能）のオン／オフを切り換えます。オンのとき、表示窓に"A.CUE"が点灯します。（→19ページ「オートキュー機能」）

⑥ PITCHキー

ピッチコントロール機能のオン／オフを切り換えます。オンにすると表示窓に"PITCH"および設定値（%）が点灯します。ピッチを設定するには＋／－キーを使います（± 12.5%）。（→20ページ「ピッチコントロール機能」）

⑦ INDEXキー／インジケーター

インデックスサーチ機能のオン／オフを切り換えます。INDEXインジケーター点灯中、TRACKキーを使ってインデックスサーチができます。（→15ページ「インデックスを選ぶ」）

⑧ ディスクトレイ

ディスクをセットします。

⑨ MENUキー

メニューモードのオン／オフを切り換えます。メニューを使ってさまざまな設定を行なうことができます。（→16ページ「メニュー操作」）

⑩ ON LINEキー（▶）

オンラインREADY中（READYキー点灯中）にこのキーを押すと、オンライン再生を行ないます。オンライン再生中、このキーは緑色に点灯します。（→14ページ「各トランスポートキーの動作詳細」）

⑪ PLAY/PAUSEキー（▶/❚❚）

停止時、オンラインREADY時またはモニター再生時に押すとモニターPAUSE状態になります。モニターPAUSE時に押すとモニター再生を始めます。
モニター再生時はキーが黄色に点灯し、モニターPAUSE時はキーが点滅します。（→14ページ「各トランスポートキーの動作詳細」）

⑫ ENTERキー

メニュー操作時、選択や設定を確定するときに押します。

⑬ READYキー（❚❚）

このキーを押すと、本機がオンラインREADYになります。
オンラインREADYのポイントは、キーを押したときの本機の状態によって異なります。（→14ページ「各トランスポートキーの動作詳細」）

⑭ ＋／－キー

メニュー操作時に項目や設定値を選択するときに使います。
またピッチコントロール値の設定にも使います。

⑮ STOPキー（■）

このキーを押すと、ディスクが停止します。停止中はこのキーが点灯します。（→14ページ「各トランスポートキーの動作詳細」）

⑯ TRACK（⏮／⏭）キー

トラックサーチ（スキップ）を行なうときに使います。INDEXインジケーター点灯時には、インデックスサーチを行ないます。スキップ後の動作はキーを押すときの動作状態、オートキュー設定、オートキューアップ設定によって異なります。（→15ページ「トラックを選ぶ」）

⑰ SEARCH（◀◀／▶▶）キー

モニター再生時またはモニターPAUSE時に押し続けると、キューサーチを行ないます。（→15ページ「曲の途中をサーチする」）

⑱ PHONESレベルつまみ

ヘッドホン出力レベルを調節します。

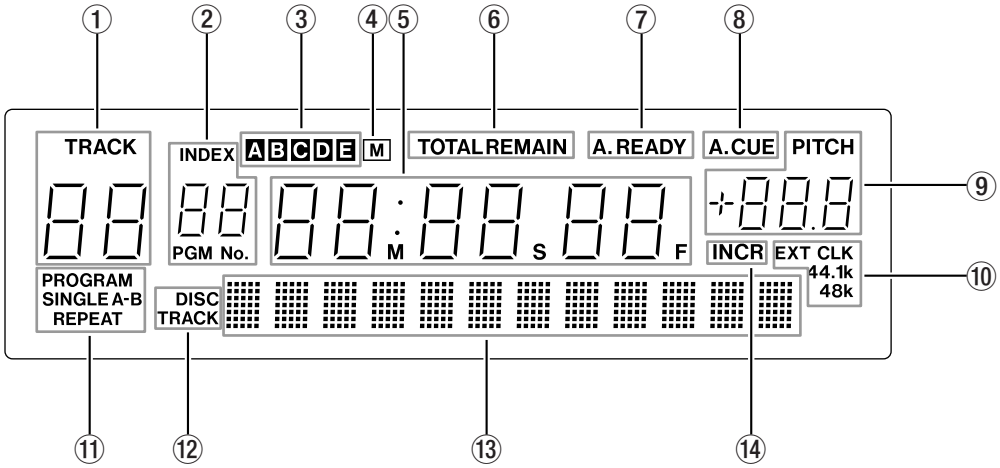
⑲ PHONESジャック

ステレオヘッドホンを接続するための標準ホンジャックです。ミニプラグのヘッドホンを接続する場合は変換アダプターをご使用ください。

⑳ 表示窓

ディスク情報、本機の動作モード、メニューなど、さまざまな情報を表示します。

表示窓



① **トラック表示部**

再生中や選択中のトラック番号を表示します。
メニューモード中はメニュー番号を表示します。

② **インデックス／プログラム表示部**

再生中や選択中のインデックス番号を表示します。プログラム設定時はプログラムステップ番号を表示します。

③ **メモリーバンク表示部**

現在選択中のメモリーバンク（A～Eのいずれか）を表示します。メモリー機能は別売のリモートコントロールユニットRC-601MKII接続時に有効な機能です。

④ **メモリー表示部**

ディスクのキューポイントなどの情報が内蔵メモリーに保存されているときに"**M**"が点灯します。メモリー機能は別売のリモートコントロールユニットRC-601MKII接続時に有効な機能です。

⑤ **時間表示部**

時間情報を表示します。
メニューモード中はメニュー項目を表示します。メニュー項目表示では、アルファベットが下のように表示されます。

A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z

⑥ **時間表示モード表示部**

時間表示モードに応じて以下のように点灯します。（→22ページ「時間表示を切り換える」）

ディスク残時間モード時：　**TOTAL**と**REMAIN**が点灯
ディスク総時間モード時：　**TOTAL**が点灯
トラック時間モード時：　**TOTAL**が点滅
トラック残時間モード時：　**REMAIN**が点灯

⑦ **オートレディ表示部**

オートレディ機能がオンのときに点灯します。（→20ページ「オートレディ機能」）

⑧ **オートキュー表示部**

オートキュー機能がオンのときに点灯します。（→19ページ「オートキュー機能」）

⑨ **ピッチコントロール表示部**

ピッチコントロールがオンのときに"**PITCH**"が点灯し、ピッチ・コントロール値を表示します。（→20ページ「ピッチコントロール機能」）
またメニューモード中は設定値を表示します。

⑩ **クロック表示部**

本機が外部クロックに同期しているときに"**EXT CLK**"が点灯し、サンプリング周波数を表示します。動作クロックを"EXT"に設定時、外部クロックに同期していない場合は"**EXT CLK**"が点滅します。（→22ページ「外部クロックを基準にする」）

⑪ **再生モード／リピートモード表示部**

再生モードおよび、リピートモードを表示します。
（→11ページ「再生モードを選ぶ」）
リピート機能は別売のRC-601MKIIリモートコントロールユニット接続時に有効な機能です。

⑫ **ディスク／トラック表示部**

キャラクター表示部にCDテキストを表示中、表示内容に応じた表示を行ないます。

ディスク情報表示時："**DISC**"が点灯

トラック情報表示時："**TRACK**"が点灯

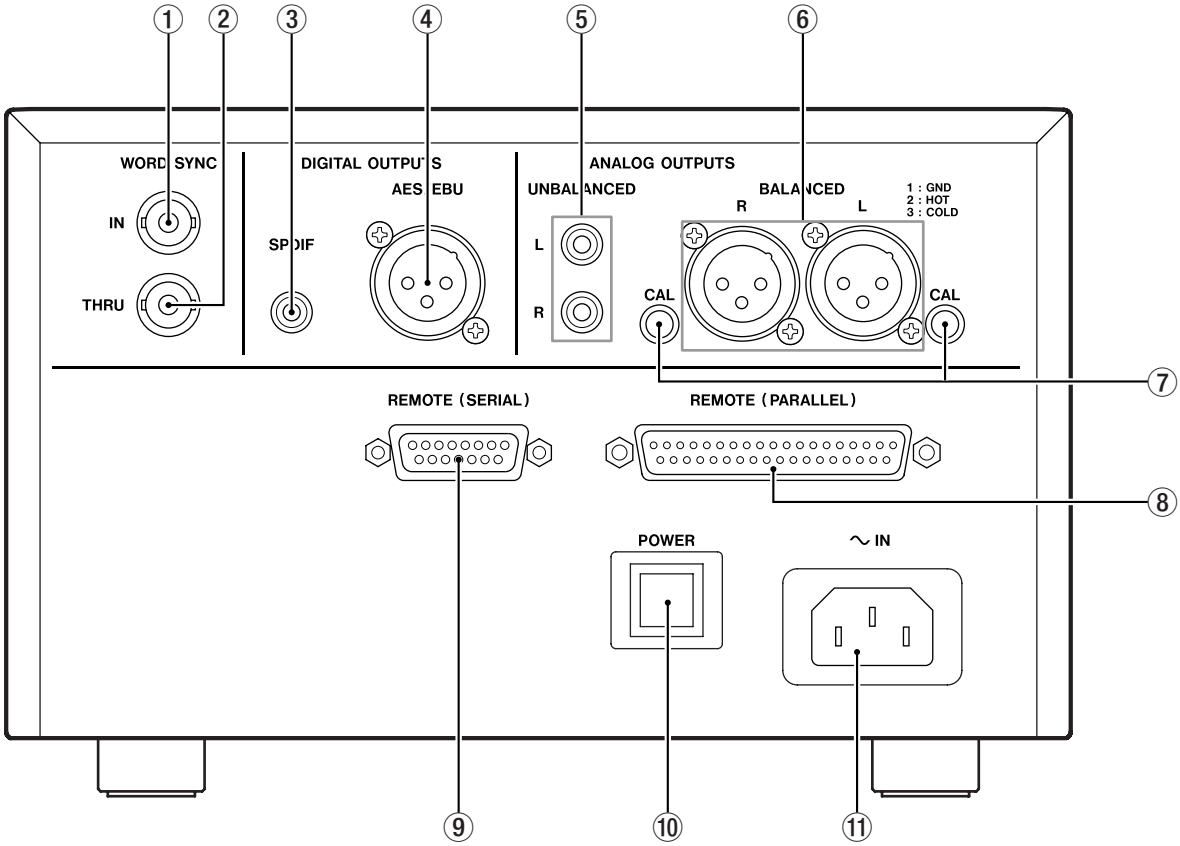
⑬ **キャラクター表示部**

CDテキストやメニュー項目内容を表示します。

⑭ **インクリメンタルプレイ表示部**

インクリメンタルプレイ機能がオンのときに点灯します。
（→20ページ「インクリメンタルプレイ機能」）

リアパネル



① WORD SYNC IN端子

ワードクロック信号を入力します。本機が外部クロック（EXT）基準で動作するとき、この端子に入力されるワードクロックが基準になります。

② WORD SYNC THRU端子

入力したワードクロック信号をスルー出力します。他のデジタル機器にワードクロック信号を送ることができます。

③ DIGITAL OUTPUTS – SPDIF端子

ディスクの再生信号をIEC60958-3（S/PDIF）フォーマットで出力するデジタル出力端子（コアキシャル）です。初期設定ではオンライン再生、モニター再生のいずれの場合でも再生信号が出力されます。

④ DIGITAL OUTPUTS – AES/EBU端子

ディスクの再生信号をIEC60958-4（AES/EBU）フォーマットで出力するデジタル出力端子です。初期設定ではオンライン再生、モニター再生のいずれの場合でも再生信号が出力されます。

⑤ ANALOG OUTPUTS – UNBALANCED（L, R）端子

ディスクの再生信号を出力するアナログアンバランス出力端子（RCAピン）です。初期設定ではオンライン再生、モニター再生のいずれの場合でも再生信号が出力されます。

⑥ ANALOG OUTPUTS – BALANCED（L, R）端子

ディスクの再生信号を出力するアナログバランス出力端子です。初期設定ではオンライン再生、モニター再生のいずれの場合でも再生信号が出力されます。

⑦ CALつまみ

アナログバランス出力端子用の半固定ボリュームつまみです。L、Rチャンネルの出力レベルを個別に微調整できます。

⑧ REMOTE（PARALLEL）端子

Dサブ37ピンコネクターです。フェーダースタートなどの外部コントロールを行なうときに使います。（→24ページ「パラレルコントロール」）

⑨ REMOTE（SERIAL）端子

別売のRC-601MKIIリモートコントロールユニットを接続します。

なおこの端子はRS-232C準拠のシリアルコントロール端子ですので、パソコンなどを接続して本機をコントロールすることもできます。（→25ページ「RS-232Cによるコントロール」）

⑩ POWERスイッチ

電源のオン／オフを切り換えます。

⑪ ～ IN

付属の電源コードを接続します。

基本操作

オンライン再生とモニター再生

本機にはオンライン再生とモニター再生という２種類の再生モードがあります。それぞれの再生モード時における出力先を個別に設定することができます。

たとえば放送やイベントなどの現場で、モニター再生モードを使って本番前にトラックや再生ポイントの頭出しを行なってからオンライン待機（READY）し、本番時にそのポイントからオンライン再生を行なうことができます。

本機では、UNBALANCEDアナログ出力端子およびSPDIFデジタル出力端子をモニター出力用端子、BALANCEDアナログ出力端子およびAES/EBUデジタル出力端子をオンライン出力用端子として位置付けています。

ただし初期設定では、モニター再生信号もオンライン再生信号も、すべてのアナログ／デジタル出力端子から同じように出力されます。

メニューの設定を変更することで、UNBALANCEDアナログ出力端子およびSPDIFデジタル出力端子をモニター専用出力に、あるいはBALANCEDアナログ出力端子およびAES/EBUデジタル出力端子をオンライン専用出力にすることができます。（→21ページ「オンライン出力用端子の設定」）（→21ページ「モニター出力用端子の設定」）

【メモ】

- 本取扱説明書では、オンライン再生待機状態を「オンラインREADY」、モニター再生待機状態を「モニターPAUSE」と表記しています。

準備

1 リアパネルのPOWERスイッチをオンにします。

● 別売のRC-601MKIIリモートコントロールユニットを使用する場合、本機の電源がオフの状態で接続を行なってください。

2 OPEN/CLOSEキーを押してディスクトレイを開きます。

3 ラベル面を上にしてディスクをトレイに載せます。

4 OPEN/CLOSEキーを押してディスクトレイを閉じます。

表示窓にディスクの総トラック数と総演奏時間が表示されます。

【メモ】

- OPEN/CLOSEキーを押す代わりに、PLAY/PAUSEキー、READYキーまたはTRACKキーを押しても、ディスクトレイが閉じます。

再生モードを選ぶ

PLAY MODEキーを使って再生モードを選ぶことができます。

キーを押すたびに以下の順に切り換わります。

通常再生（全曲再生）→ シングル再生 → プログラム再生

表示窓の再生モード表示部に現在の再生モードが表示されます。

再生モード	表示窓	動作
通常再生	（無表示）	ディスクのトラック順に再生（通常再生）
シングル再生	SINGLE点灯	選択したトラックだけ再生
プログラム再生	PROGRAM点灯	あらかじめ設定したプログラム順に再生

● 選択した再生モードはバックアップ保存されますので、次回電源をオンにしたときに再現されます。

希望の1曲を頭から演奏する（シングルプレイ）

以下に、希望の曲を選んでから曲を確認（モニター再生）した後、本番の再生（オンライン再生）を行なう手順を説明します。なお各メニュー項目が初期設定のままの状態で行なうものとします。

1 PLAY MODEキーを使って、シングルモードを選択します。

表示窓の再生モード表示部に"SINGLE"が点灯するまで、必要な回数だけPLAY MODEキーを押します。

2 AUTO CUEキーを押して、オートキュー機能をオンにします。

表示窓右上部に"A.CUE"が点灯します。

3 TRACKキーを使って、再生する曲（トラック）を選択します。

選択トラックの音声が立ち上がるポイントでオンラインREADYになります（READYキー点灯）。

● トラック選択後、オンラインREADYではなくモニターPAUSEになるような設定にすることもできます。（→20ページ「オートキューアップの設定」）

4 再生音をチェックするには、PLAY/PAUSEキーを押してモニターPAUSE状態にしてから、もう一度PLAY/PAUSEキーを押してモニター再生を行ないます。

● モニター再生音のチェックは、外部のモニターシステムを使って行なうことができるほかに、本機のPHONES端子に接続したヘッドホンを使って行なうこともできます。

5 確認後、READYキーを押します。

曲が始まるポイントに戻ってオンラインREADY状態になります（READYキー点灯）。

6 ON LINEキーを押してオンライン再生を始めます。

曲が終わると自動的に停止します。

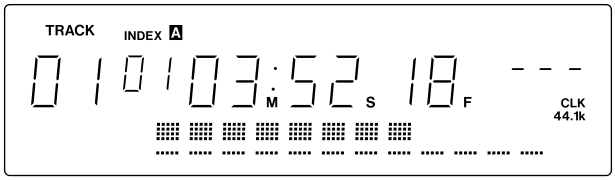
● 演奏を中断するときはSTOPキーを押します。

【メモ】

- 初期設定ではフェールセーフ機能がオンになっているため、オンライン再生中はSTOPキー、PLAY MODEキー、DISP MODEキー以外を受け付けませんが、メニューシステムを使ってフェールセーフ機能をオフにすることができます。（→22ページ「フェールセーフ機能」）

再生位置の表示

再生中、トラック内のおおよその再生位置が、表示窓のキャラクター表示部に12ドットのバーで表示されます。再生が進むにしたがって四角いドットの数が増えます。以下の例ではトラックのほぼ2/3が再生された状態を示しています。



なお、表示窓の時間表示がトラック残量モード（REMAIN）の場合、トラックの頭で四角いドットがすべて点灯し、再生が進むにつれてドットが減っていきます。

曲の途中から演奏する

曲の途中の希望のポイントを探して、そのポイントから本番の再生を行なうには、前ページの手順３でトラックを選んだ後、以下の操作を行ないます。

4 PLAY/PAUSEキーを押してモニターPAUSEにします。

5 再度PLAY/PAUSEキーを押してモニター再生を行ない、希望のポイント付近まで進めます。

6 希望のポイント付近でPLAY/PAUSEキーを押してモニターPAUSEにします。

7 SEARCHキーを使って希望のポイントを探します。

【メモ】

- モニターPAUSE中、SEARCHキーをポンと押すと１フレーム単位でポイントが前後します。押し続けていると移動速度が速くなります。（→15ページ「曲の途中をサーチする」）

8 希望のポイントを探したら、再度PLAY/PAUSEキーを押してモニター再生を行ない、ポイントを確認します。

9 READYキーを押します。

手順７で設定したポイントに戻ってオンラインREADYになります（READYキー点灯）。

設定ポイントを調整したいときは、PLAY/PAUSEキーを押してモニターPAUSEにしてから手順７に戻ります。

10 ON LINEキーを押して演奏を始めます。

曲が終わると停止します。

● 演奏を中断するときはSTOPキーを押します。

キューポイントの自動登録

初期設定では、最後にモニターPAUSEからモニター再生を開始した位置がキューポイントとして自動的に登録されます。モニター再生中にREADYキーを押すと、CD-601MKIIはキューポイントにロケートしてオンラインREADYになります。

メニュー項目番号20（"CUE_SET"）を使うと、キューポイントを自動登録する条件として以下の２つのいずれかを選択することができます。

NOR（初期設定）：最後にモニターPAUSEからモニター再生を開始した位置をキューポイントとして自動登録します。

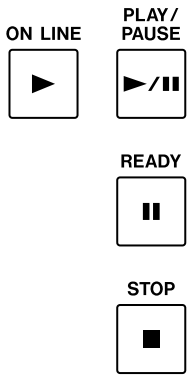
RDY：モニターPAUSEからモニター再生を開始した位置、またはモニターPAUSEからREADYキーを押した位置をキューポイントとして自動登録します。

● メニューの操作方法については「メニュー操作」（16ページ）をご覧ください。

【メモ】

- 別売のRC-601MKIIリモートコントロールユニットを使うと、上記の自動登録されるキューポイントを、キューポイント（CUE1～10）に登録することができます。

各トランスポートキーの動作詳細



READYキー（❚❚）

このキーを押すと、本機がオンラインREADY（待機）になります。

オンライン再生を行なうには、いったんオンラインREADYにする必要があります。

オンラインREADY状態ではいずれの端子からもオーディオ信号が出力されません。

オンラインREADYのポイント

オンラインREADYのポイントは、**READY**キーを押したときの本機の状態に応じてそれぞれ以下のようになります。

- トレイオープン時：ディスクのトラック1の頭
- モニターPAUSE時：**READY**キーを押したときのポイント
- 停止時／モニター再生時：ディスクのトラック1の頭（キューポイントが登録されていない場合）、または最後にモニターPAUSE状態からモニター再生を開始したポイント（キューポイント）
- オンライン再生時（フェールセーフ設定がオフのときのみ）：**READY**キーを押したときのポイント

【メモ】

- フェールセーフ設定がオンの場合、オンラインREADY中に**TRACK**キー、**SEARCH**キー、**INDEX**キー、**MENU**キーを受け付けません。（→22ページ「フェールセーフ機能」）

ON LINEキー（▶）

オンラインREADY時（**READY**キー点灯中）にこのキーを押すと、オンライン再生が始まります。オンライン再生中、このキーは緑色に点灯します。

オンラインREADY中以外のときにこのキーを押してもオンライン再生になりません。

オンライン再生を中断するときは、**STOP**キーを押します。

初期設定では、オンライン再生信号はすべてのアナログ／デジタル出力端子から出力されます。ただしメニューを使ってUNBALANCEDアナログ出力端子およびSPDIFデジタル出力端子から出力されないように設定することができます。（→21ページ「モニター出力用端子の設定」）

【メモ】

- フェールセーフ設定がオンの場合、オンライン再生中は**STOP**キー、**PLAY MODE**キー、**DISP MODE**キー以外のキーを受け付けません。（→22ページ「フェールセーフ機能」）

PLAY/PAUSEキー（▶/❚❚）

停止時、オンラインREADY時またはモニター再生時にこのキーを押すと、モニターPAUSE状態になります。モニターPAUSE時にこのキーを押すと、モニター再生が始まります。

【メモ】

- フェールセーフがオフに設定してある場合、オンライン再生時にこのキーを押したときにもモニターPAUSE状態になります。（→22ページ「フェールセーフ機能」）

モニターPAUSE中は表示窓のキャラクター表示部に"PAUSE"が表示されます。

初期設定では、モニター再生信号はすべてのアナログ／デジタル出力端子から出力されます。ただしメニューを使ってBALANCEDアナログ出力端子およびAES/EBUデジタル出力端子から出力されないように設定することができます。（→21ページ「オンライン出力用端子の設定」）

モニター再生時は**PLAY/PAUSE**キーが黄色に点灯し、モニターPAUSE時はキーが点滅します。

【メモ】

- ディスクトレイが開いているときにこのキーを押すと、トレイが閉まってからトラック1の頭でモニターPAUSEになります。
- 停止中にこのキーを押すと、トラック1の頭でモニターPAUSEになります。

STOPキー（■）

オンライン再生時、オンラインREADY時、モニター再生時またはモニターPAUSE時に**STOP**キーを押すと、ディスクが停止します。停止中はこのキーが点灯します。

ただしインクリメンタルプレイ機能をオンに設定している場合、オンライン再生時、モニター再生中に**STOP**キーを押すと、次に再生する曲の頭で、オートキューアップの設定に従ってオンラインREADYかモニターPAUSEで待機します。

再生する場所を選ぶ

トラックを選ぶ

TRACK（⏮／⏭）キーを使ってトラックを選択（スキップ）できます。

⏮ キー：

トラックの経過時間が 1 秒以上のときに押すと、そのトラックの頭に戻ります。経過時間が 1 秒未満のときに押すと、手前のトラックの頭にスキップします。

⏭ キー：

次のトラックの頭にスキップします。もう一度押すと、その次のトラックの頭にスキップします。

- プログラム再生モード時はプログラム順に従って前後のトラックにスキップします。
- トラック 1 の頭で ⏮ キーを押すと最後のトラックの頭に、最後のトラックのときに ⏭ キーを押すと最初のトラックの頭にスキップします。
- 停止中に ⏮ キーまたは ⏭ キーを押すとディスクの最初のトラックの頭にスキップします。

トラック選択後の動作

TRACK キーを押してトラックを選択した後の本機の動作は、キーを押したときの本機の動作状態、オートキュー機能のオン／オフ状態、およびオートキューアップの設定によって異なります。（→ 19ページ「オートキュー機能」）

オートキュー機能がオンのとき

オートキュー機能がオンのときは、基本的にオートキューアップの設定に従って待機します。

オートキュー機能がオフのとき

TRACK キーを押す前と同じ動作状態になります。ただし、停止時またはトレイオープン時にトラック選択を行なった場合はモニター再生になります。

インデックスを選ぶ

INDEX キーを押してインデックスサーチモード（インジケーター点灯）にすると、TRACK キーを使ってインデックスを選択（スキップ）できます。

インデックス選択後の動作モードはトラック選択の場合に準じます。オートキュー機能も働きます（インデックスの音声立ち上がりポイントで待機）。

曲の途中をサーチする

モニター再生中またはモニター PAUSE 中に SEARCH（◀◀／▶▶）キーを押し続けると、キューサーチができます。

なおフェールセーフ機能をオフにすると、オンライン READY 中にもキューサーチができます。（→ 22 ページ「フェールセーフ機能」）

【メモ】

- キューサーチ時は自動的に再生出力レベルが約 12dB 下がります。

モニター再生中に SEARCH キーを押し続けると、約 10 倍速でキューサーチを行ないます。

モニター PAUSE 時に SEARCH キーを押し続けると、サーチ速度がだんだん速くなります。

メニュー操作

メニューシステムを使って本機の各種設定を行なうことができます。

メニューの構成

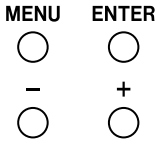
メニューには以下の項目があります。

メニュー番号	項目表示	内容表示	内容	参照個所
01	A_CUE	Auto cue level	オートキューレベルの設定	「オートキューレベルの設定」（p. 20）
02	ONLINE	Online play output	オンライン出力用端子の設定	「オンライン出力用端子の設定」（p. 21）
03	MONI	Monitor output	モニター出力用端子の設定	「モニター出力用端子の設定」（p. 21）
04	CLOCK	Clock source	動作クロックの設定	「外部クロックを基準にする」（p. 22）
05	PROG	Program setting	プログラムの設定	「プログラム再生」（p. 19）
06	INCR_P	Incremental play	インクリメンタルプレイのオン／オフ	「インクリメンタルプレイ機能」（p. 20）
07	TIMER	Timer play	タイマープレイのオン／オフ	「タイマープレイ機能」（p. 23）
08	OUTPUT	Output stereo mono	出力のステレオ／モノラル設定	「ステレオ／モノラル設定」（p. 21）
09	OUT_L	Output level	出力レベルの設定	「出力レベル設定」（p. 21）
10	F_SAFE	Fail safe	オンライン再生／READY中の フェールセーフ機能のオン／オフ	「フェールセーフ機能」（p. 22）
11	EOM	End of music time	トラックの終了予告表示の設定	「トラックの終了予告を表示する」（p. 22）
12(*)	E_CHK	End check time	エンドチェックの時間設定	RC-601MKII取扱説明書
13(*)	BANK	Memory BANK select	メモリーバンクの切り換え	RC-601MKII取扱説明書
14	F_STAR	Fader start polarity	フェーダースタートの極性設定	「フェーダースタート／ストップの設定」（p. 24）
15	F_STOP	Fader stop state	フェーダーストップ時の本機の状態設定	「フェーダースタート／ストップの設定」（p. 24）
16	CUE_UP	Auto CUE up state	オートキュー、オートレディ時の 本機の待機モードの設定	「オートレディ機能」（p. 20）
17(*)	RMT	Remote control	リモコン(*)（RC-601MKII）使用時の 本体操作の有効／無効設定	RC-601MKII取扱説明書
18	FRAME	Frame display	表示窓の時間表示部の フレーム表示の設定	「フレーム表示を消す」（p. 23）
19	TIME	Time display	時間表示の切り換えパターンの設定	「時間表示を切り換える」（p. 22）
20	CUESET	Cue point set	キューポイント設定	「キューポイントの自動登録」（p. 13）
21	A_CLR	Memory ALL clear	メモリーオールクリア	「メニュー設定のクリア」（p. 18）
22	USER	User setting	設定内容を保存する ユーザーバンクの呼び出し	「メニュー設定の保存」（p. 18）
23	RS232C	Com PORT baud rate	RS232Cのボーレート設定	「ボーレートの設定」（p. 25）
(ナシ)	xxxxH	Motor addition time display	モーターの駆動積算時間表示	「モーター積算時間を見る」（p. 23）

※ 上記の表で(*)が付いているメニュー項目は、別売のRC-601MKIIリモートコントロールユニット接続時に有効な項目です。
これらの項目の詳細についてはRC-601MKIIの取扱説明書をご覧ください。

メニュー操作の基本

メニュー操作にはMENUキー、ENTERキー、＋／－キーを使います。



1 MENUキーを押します。

本機がメニューモードになり、表示窓にメニュー画面が表示されます。

各メニュー画面には以下の内容が表示されます。

2 ＋／－キーを使って希望のメニュー項目を選択します。

＋キーを押すと次のメニュー番号のメニュー項目が表示されます。

－キーを押すと手前のメニュー番号のメニュー項目が表示されます。

- この段階ではメニュー番号が点滅し、メニュー項目を選択中であることを示します。
- メニュー内容表示は、画面の切り換え直後にスクロール表示され、その後は先頭の12文字が固定表示されます。メニュー項目によっては、項目内容だけでなく個々の選択肢の内容も表示されます（メニュー番号19など）。

3 ENTERキーを押してメニュー項目を確定します。

メニュー番号が点滅から点灯に変わります。

- 以下の操作手順（4～6）は、メニュー番号05（"PROG"）、メニュー番号21（"A_CLR"）、およびモーター積算時間表示には適用されません。

4 ＋／－キーを使って希望の値を選択します。

現在の設定値を変更すると値が点滅します。

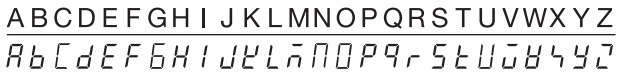
5 ENTERキーを押して設定を確定します。

値が点滅から点灯に変わります。

6 設定を終えたら、MENUキーを押してメニューモードを終了します。

【メモ】

- メニュー項目名のアルファベットは下のように表示されます。



- 別売のRC-601MKIIリモートコントロールユニット接続時、RC-601MKIIでメニュー操作を行なっているときは、本機ではメニュー操作を含むすべての操作ができません。
- 同様に、本機でメニュー操作を行なっているときは、RC-601MKIIではメニュー操作を含むすべての操作ができません。

メニュー設定の保存

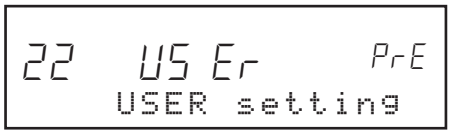
各メニュー項目の設定内容をユーザーバンクに保存することができます。

5つのユーザーバンク（U1～U5）が用意され、本機の電源をオフにしたときのメニュー設定が選択中のユーザーバンクに記憶されます。

作業内容別に最適なメニュー設定を別々のユーザーバンクに保存しておくと便利です。

メニュー番号22（"USER"）を使ってユーザーバンクを選択することができます。

選択肢：U1（初期設定）～U5、PRE



電源をオンにしたときは、選択中のユーザーバンクに保存されているメニュー設定状態が再現されます。PREを選択している場合はメニュー設定はすべて初期設定になります。

作業中に上記のメニュー項目（"USER"）を使ってユーザーバンクを変更すると、新しく選択されたユーザーバンクのメニュー設定に変わります（電源を入れ直す必要はありません）。

メニュー設定のクリア

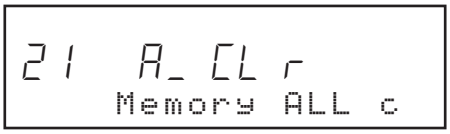
ユーザーバンクに保存されているメニュー設定をクリアして初期設定に戻すことができます。ユーザーバンクの一括クリアとユーザーバンクごとのクリアができます。

すべてのユーザーバンクをクリアする

前述のメニュー番号22の設定を"PRE"にして、メニュー番号21（"A_CLR"）を使ってクリアします。

メニュー番号21（"A_CLR"）を選択すると、"SURE?"が表示されますので、再度**ENTER**キーを押します。

ユーザーバンク（U1～U5）に保存されているすべてのメニュー設定情報がクリアされ、初期設定に戻ります。



【メモ】

- 別売のRC-601MKIIリモートコントロールユニット使用時は、メモリークリアによって、メモリーバンク（A～E）のディスク情報もクリアされます。

ユーザーバンクごとにクリアする

1 前述のメニュー番号22で、クリアしたいユーザーバンクを選択します。

2 ＋キーと－キーを同時に押します。

再生に関する機能

プログラム再生

プログラム再生機能を使って、希望のトラック順に再生することができます。最大30トラックのプログラムが可能です。

プログラムモードにする

PLAY MODEキーを使って、プログラムモードを選択します。

表示窓のメッセージ表示部に"PROGRAM"が表示されるまで、必要な回数だけPLAY MODEキーを押します。

プログラムモードでは、以下に述べる方法で作成したプログラムに従って再生を行ないます。

プログラムを作成する

1 MENUキーを押してメニューモードにします。

2 ＋／－キーを使って、メニュー番号05（"PROG"）を選択し、ENTERキーを押します。

プログラム設定画面になります。

3 TRACKキーを使って希望のトラックを選び、ENTERキーを押します。

選択したトラックがプログラムの1曲目（プログラムナンバー01）として設定され、次の曲（プログラムナンバー02）を設定できる状態になります。

4 上記手順3を必要なだけ繰り返して、希望のプログラムを作成します。

5 プログラムの作成を終えたらMENUキーを押してメニューモードを終了します。

プログラムしたトラックを差し替える

プログラム設定画面表示中、プログラムしたトラックを以下の手順で差し替えることができます。

1 SEARCHキーを使って、差し替えたいプログラムナンバーを選びます。

2 TRACKキーを使って希望のトラックを選び、ENTERキーを押します。

3 トラックの差し替えを終えたら、MENUキーを押してメニューモードを終了します。

プログラム曲を追加する

プログラム設定画面表示中、以下の手順でプログラム曲を追加することができます。

1 SEARCHキーを使って、曲を追加する個所を選びます。

たとえば現在プログラムナンバー2と3に設定されている曲の間に新たに曲を追加する場合、プログラムナンバー3を選びます。

2 ＋キーを押します。

3 TRACKキーを使って追加するトラックを選び、ENTERキーを押します。

4 曲の追加を終えたら、MENUキーを押してメニューモードを終了します。

プログラム曲を削除する

プログラム設定画面表示中、以下の手順でプログラム曲を削除することができます。

1 SEARCHキーを使って、削除したい曲が設定されているプログラムナンバーを選びます。

2 －キーを押します。

曲が削除され、以降の曲のプログラム番号が繰り上がります。

3 曲の削除を終えたら、MENUキーを押してメニューモードを終了します。

プログラムをクリアする

トレイをオープンするとプログラムがクリアされます。

【メモ】

- ディスクを入れた状態で電源をオフにしてもプログラム設定はクリアされません。

オートキュー機能

オートキュー機能をオンにすると、トラックを選択したときやオートレディ機能オン時に、自動的にトラックの音声立ち上がりポイントで待機（オンラインREADYまたはモニターPAUSE）します。（→15ページ「トラックを選ぶ」）

AUTO CUEキーを押してオートキュー機能のオン／オフを行ないます。オートキュー機能がオンのとき、表示窓に"A.CUE"が点灯します。

● オートキュー機能のオン／オフ設定はバックアップ保存されますので、次回電源をオンにしたときに再現されます。

オートキュー機能オンでトラックの音声立ち上がりポイントサーチ後、本機がオンラインREADYになるかモニターPAUSEになるかは、以下に説明するオートキューアップ設定によって決まります。

オートキューレベルの設定

メニュー番号01（"A_CUE"）を使って、オートキューレベルを以下の中から選びます。選択したトラックでオートキューレベル以上の信号が最初に出現するポイントが音声立ち上がりポイントとして認識されます。

選択肢：－72dB（初期設定）、－66dB、－60dB、－54dB、－48dB

オートキューアップの設定

メニュー番号16（"CUE_UP"）を使って、オートキュー機能が動作したときに本機がオンラインREADYになるかモニターPAUSEになるかを選びます。

選択肢：RDY（オンラインREADY、初期設定）、PUS（モニターPAUSE）

【メモ】

- オートレディ機能が動作したときにも、オートキューアップの設定に従ってオンラインREADYまたはモニターPAUSEになります。

オートレディ機能

オートレディ機能をオンにすると、トラック再生後に次のトラックの頭で待機します。

AUTO RDYキーを押してオートレディ機能のオン／オフを行ないます。オートレディ機能がオンのとき、表示窓に"**A.READY**"が点灯します。

● オートレディ機能のオン／オフ設定はバックアップ保存されますので、次回電源をオンにしたときに再現されます。

オートレディ機能が動作すると、メニュー番号16（"CUE_UP"）の設定に従って、本機がオンラインREADYまたはモニターPAUSEになります。（ → 上記「オートキューアップの設定」）

また再生モードによって、以下のポイントで待機します。

通常再生：　次トラックの頭
シングル再生：　現在のトラックの頭
プログラム再生：　次にプログラムされているトラックの頭

【メモ】

- オートレディ機能とオートキュー機能とを併用すると、トラック再生後に次のトラックの音声立ち上がりポイントで待機します。

ピッチコントロール機能

ピッチコントロール機能を使って、±12.5%の範囲で再生スピードを調節できます。

PITCHキーを押してピッチコントロール機能のオン／オフを行ないます。ピッチコントロール機能がオンのとき、表示窓に"**PITCH**"表示および現在のピッチコントロール値が点灯します。

ピッチコントロール機能がオンのとき、**+**／**−**キーを使ってピッチコントロール値を設定できます（0.1%単位）。

+キーと**−**キーを同時に押すと0.0%にリセットされます。

● ピッチコントロール機能のオン／オフおよびピッチコントロール値の設定はバックアップ保存されますので、次回電源をオンにしたときに再現されます。

【メモ】

- ピッチコントロールが働いているときでも、本機のデジタル出力端子からは常にサンプリング周波数44.1kHzのデジタル信号が出力されます。ただし48kHzの外部ワードクロック信号に同期している時は、サンプリング周波数48kHzのデジタル信号が出力されます。

インクリメンタルプレイ機能

インクリメンタルプレイ機能をオンにすると、オンライン再生時、モニター再生中に**STOP**キーを押すと、次のトラックの頭にスキップし、オートキューアップの設定に従ってオンラインREADYかモニターPAUSEで待機します。

【メモ】

- プログラム再生モード中は次のプログラムステップのトラックの頭にスキップします。シングル再生モード中は現在のトラックの頭にスキップします。

メニュー番号06（"INCR_P"）を使って、インクリメンタル機能のオン／オフを選びます。

選択肢：OFF（初期設定）、ON

【メモ】

- 別売のRC-601MKIIリモコンの**MONITOR**ボタンまたはリアパネルのREMOTE（PARALLEL）端子の2番ピン（MONITOR PLAY IN）を利用すると、次のトラックの頭にスキップしてモニター再生を始めることができます。
  また、別売のRC-601MKIIリモコンの**ONLINE**ボタンまたはリアパネルのREMOTE（PARALLEL）端子の1番ピン（ONLINE PLAY IN）を利用すると、フェールセーフがオフの時に限り、オンライン再生中に次のトラックの頭にスキップしてオンライン再生を始めることができます。

出力に関する設定

オンライン出力用端子の設定

BALANCEDアナログ出力端子とAES/EBUデジタル出力端子は、基本的にオンライン出力用の端子として用意されています。初期設定ではモニター再生信号とオンライン再生信号の両方がこれらの端子から出力されますが、メニュー番号02（"ON LINE"）を使って、これらの出力端子からオンライン再生信号だけが出力されるように設定することができます。

OFF（初期設定）：

オンライン再生時もモニター再生時も、BALANCEDアナログ出力端子およびAES/EBUデジタル出力端子からオーディオ信号を出力。

ON：

オンライン再生時のみ、BALANCEDアナログ出力端子およびAES/EBUデジタル出力端子からオーディオ信号を出力。

モニター出力用端子の設定

UNBALANCEDアナログ出力端子とSPDIFデジタル出力端子は、基本的にモニター出力用の端子として用意されています。初期設定ではモニター再生信号とオンライン再生信号の両方がこれらの端子から出力されますが、メニュー番号03（"MONI"）を使って、これらの出力端子からモニター再生信号だけが出力されるように設定することができます。

OFF（初期設定）：

オンライン再生時もモニター再生時も、UNBALANCEDアナログ出力端子およびSPDIFデジタル出力端子からオーディオ信号を出力。

ON：

モニター再生時のみ、UNBALANCEDアナログ出力端子およびSPDIFデジタル出力端子からオーディオ信号を出力。

【メモ】

- 上記設定にかかわらず、PHONES端子からはモニター再生時、オンライン再生時のいずれの場合も再生信号が出力されます。

ステレオ／モノラル設定

再生出力信号をモノラルにすることができます。

メニュー番号08（"OUTPUT"）を使って設定します。

選択肢： ST（STEREO、初期設定）、MON（MONO）

出力レベル設定

BALANCEDアナログ出力端子の最大出力レベルを選択することができます。

メニュー番号09（"OUT_L"）を使って選択します。

選択肢： ＋24（初期設定）、＋22、＋20、＋15（dBu）

その他の機能／設定

外部クロックを基準にする

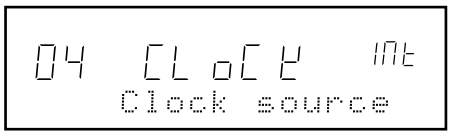
本機を外部デジタルクロックを基準に動作させることができます。

1 リアパネルのWORD SYNC IN端子に外部からのワードクロックを供給します。

2 メニュー番号04（"CLOCK"）を"EXT"に設定します。

表示窓のクロック表示部に"EXT CLK"およびサンプリング周波数（"44.1k"または"48k"）が点灯します。

初期設定は"INT"（内部クロック基準）です。



フェールセーフ機能

フェールセーフ機能は、本番中に誤って操作キーに触れたときに再生を中断しないための安全機能です。

初期設定ではフェールセーフ機能がオンになっていて、オンライン再生中はSTOPキー、PLAY MODEキー、DISP MODEキー以外のキーを受け付けません。またオンラインREADY中はTRACKキー、テンキーなどのサーチに関するキーや、MENUキーなどを受け付けません。

メニュー番号10（"F_SAFE"）を使ってフェールセーフ機能をオフ（"OFF"）に設定すると、すべてのキーが働きます（ただしオンライン再生中のSEARCHキーを除きます。）

トラックの終了予告を表示する

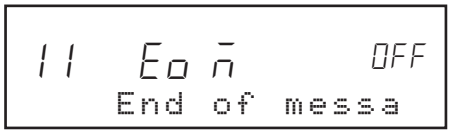
オンライン再生やモニター再生中、表示窓にトラックの終了予告（EOM＝End Of Message）を表示することができます（初期設定では表示しません）。

表示する設定にすると終了までの時間をカウントダウン表示します。

メニュー番号11（"EOM"）を使って、終了予告表示の設定を行ないます。

OFF（初期設定）：終了予告を表示しません。

10、15、20、30、60、90：　それぞれの秒数分手前からカウントダウン表示が始まります。



時間表示を切り換える

再生中、DISP MODEキーを押すたびに表示窓内の時間情報が切り換わります。初期設定では「トラック経過時間」と「トラック残時間」の間で切り換わります。

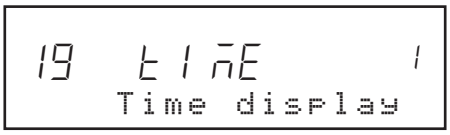
メニュー番号19（"TIME"）では、DISP MODEキーを使って切り換える時間表示の種類を選択することができます。選択肢は1～4で表示されます。

1（初期設定）：トラック経過時間 ⇔ トラック残時間

2：トラック経過時間 ⇔ トラック残時間 ⇔ ディスク残時間

3：トラック経過時間 ⇔ トラック残時間 ⇔ ディスク残時間 ⇔ ディスク総時間

4：トラック経過時間 ⇔ トラック残時間 ⇔ ディスク残時間 ⇔ ディスク総時間 ⇔ トラック時間



なお表示窓の上部には、現在の時間表示モードが以下のように表示されます。

トラック経過時間：（表示ナシ）
トラック残時間：　REMAINが点灯
ディスク残時間：　TOTAL REMAINが点灯
ディスク総時間：　TOTALが点灯
トラック時間：　TOTALが点滅

● 時間表示設定はバックアップ保存されますので、次回電源をオンにしたときに再現されます。

【メモ】

- 停止中は常にディスク総時間が表示されます。

フレーム表示を消す

表示窓に表示される時間表示のフレーム桁を消すことができます。

メニュー番号 18（"FRAME"）を使って、以下の中から選択します。

ON（初期設定）：フレーム桁を表示します。

OFF：フレーム桁を表示しません。

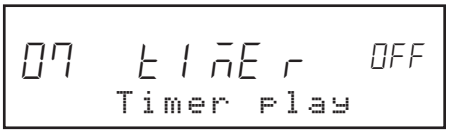
AUTO：オンライン再生時だけ、フレーム桁を表示しません。

タイマープレイ機能

タイマープレイ機能をオンに設定しておくと、本機の電源をオンにしたとき自動的にモニター再生が始まります。

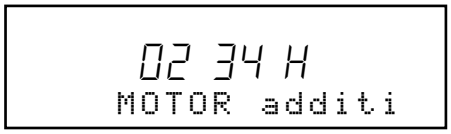
メニュー番号 07（"TIMER"）を使って、タイマープレイ機能のオン／オフを選びます。

選択肢：OFF（初期設定）、ON



モーター積算時間を見る

本機の CD メカニズムのモーターの積算使用時間を見るには、メニュー番号 23 の次（01 の手前）のメニュー番号のない項目を選択します。

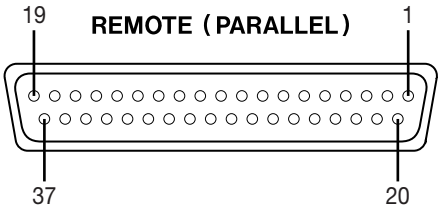


上の画面例はモーターの積算使用時間が 234 時間であることを示しています。

外部コントロール

パラレルコントロール

リアパネルのREMOTE（PARALLEL）端子（37ピン・Dサブコネクター）を使って、外部から本機をパラレルコントロールすることができます。



ピン配列

ピンNo.	信号名	IN/OUT
1	ON LINE PLAY IN	IN
2	MONITOR PLAY IN	IN
3	PAUSE IN	IN
4	READY IN	IN
5	STOP IN	IN
6	TRACK SEARCH REV IN[¦<<]	IN
7	N.C	–
8	TRACK SEARCH FWD IN [>>¦]	IN
9	SERACH REV IN[<<]	IN
10	SEARCH FWD IN [>>]	IN
11	MONITOR PLAY TALLY	OUT
12	READY TALLY	OUT
13	PAUSE TALLY	OUT
14	STOP TALLY	OUT
15	INDEX SERACH REV IN [<-]	IN
16	INDEX SEARCH FWD IN [->]	IN
17	ON LINE PLAY TALLY	OUT
18	FLASH READY IN	IN
19	FLASH MODE IN	IN
20	EOM OUT	OUT
21	FADER START/STOP IN	IN
22	ONLINE PLAY / MONITOR PLAY OUT	OUT
23	TEN KEY 0 IN	IN
24	TEN KEY 1 IN	IN
25	TEN KEY 2 IN	IN
26	TEN KEY 3 IN	IN
27	TEN KEY 4 IN	IN
28	TEN KEY 5 IN	IN
29	TEN KEY 6 IN	IN
30	TEN KEY 7 IN	IN
31	TEN KEY 8 IN	IN
32	TEN KEY 9 IN	IN
33	STOP/READY OUT	OUT
34	FLASH READY TALLY	OUT
35	FLASH MODE TALLY	OUT
36	GND	–
37	+5 V	–

パラレルコントロールの入出力仕様

入力： +5 Vプルアップ, Low Active, 50 ms以上
出力： オープンコレクタ, 20 mA max
+5 V（37番ピン）の最大電流： 100 mA

フェーダースタート／ストップの設定

REMOTE（PARALLEL）端子の21番ピン（FADER START/STOP IN）と36番ピン（GND）を外部のフェーダースイッチに接続することにより、フェーダースタート／ストップが可能になります。フェーダースタート時、本機はオンライン再生になります。

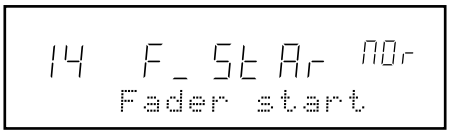
外部フェーダーから本機のスタート／ストップを行なう場合、以下のメニュー項目を設定してください。

フェーダースタートの設定

メニュー番号14（"F_STAR"）を使って、極性を設定します。

NOR（NORMAL）：ローアクティブ。入力信号がハイからローに切り換わると本機がスタートします。

REV（REVERSE）：ハイアクティブ。入力信号がローからハイに切り換わると本機がスタートします。



フェーダーストップの設定

メニュー番号15（"F_STOP"）を使って、ストップ動作時の本機の状態を設定します。

STP（STOP）：停止します。

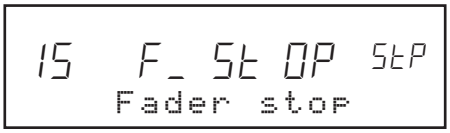
RDY（READY）：オンラインREADYになります。

PUS（PAUSE）：モニターPAUSEになります。

CUE：キューポイント（フェーダースタート時のポイント）に戻り、オンラインREADYになります。

INC（INCREMENT）：次のトラックの頭でオンラインREADYになります。

PLY（PLAY）：オンライン再生を継続します。



RC-601MKIIからのコントロール

別売のリモートコントロールユニット、RC-601MKIIを使うことにより、機能が追加されるとともに使い勝手が一段と向上します。

RC-601MKIIによって拡張／追加される主な機能

- テンキーを使ったタイムサーチ／インデックスサーチ
- ジョグ／サーチダイアルを使ったサーチ
- トラックの終わりの部分を試聴できるエンドチェック機能
- 1曲リピート、全曲リピート、プログラムリピート、A-B間リピート再生
- 1枚のディスクにつき最大10箇所のキューポイント設定が可能
- キューポイント（10箇所）を使ったフラッシュスタート機能
- 500枚分のディスクのキューポイント設定をメモリー可能
- MEMOポイントを使ったA-B間再生、ポイントの確認再生が可能
- RC-601MKIIに最大4台のCD-601MKIIのモニター出力を接続し、ヘッドホンモニターが可能

本機操作の設定

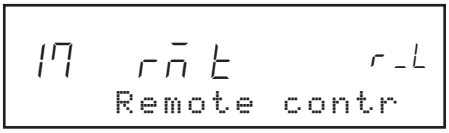
RC-601MKII接続時、本機の操作を有効にするか無効にするかを選ぶことができます。

メニュー番号17（"RMT"）を使って設定します。

R_L（REMOTE + LOCAL、初期設定）：RC-601MKIIと本機のどちらからも操作が可能です。

R（REMOTE）：RC-601MKIIからだけ操作が可能です。OPEN/CLOSEキー以外の本機の操作は無効です。

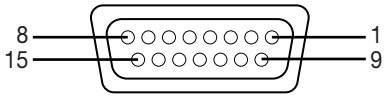
RC-601MKIIを接続していない場合、この項目の設定にかかわらず、本機の操作が有効です。



RS-232Cによるコントロール

リアパネルのREMOTE（SERIAL）端子（15ピン・Dサブコネクター、RS-232C準拠）を使って、外部（パソコンなど）から本機をシリアルコントロールすることができます。詳細については当社にお問合せください。

REMOTE（SERIAL）



ピン配列

ピンNo.	信号名	IN/OUT	
1	SHIELD	−	シールド（シェルグランド）
2	RX	IN	受信データ
3	(Reserved)	−	予約済
4	(Reserved)	−	予約済
5	(Reserved)	−	予約済
6	GND	−	グランド
7	(Reserved)	−	予約済
8	(Reserved)	−	予約済
9	TX	OUT	送信データ
10	(Reserved)	−	予約済
11	(Reserved)	−	予約済
12	(Reserved)	−	予約済
13	(Reserved)	−	予約済
14	(Reserved)	−	予約済
15	(Reserved)	−	予約済

ボーレートの設定

REMOTE（SERIAL）端子を使って本機をコントロールする場合、メニュー番号23（"RS232C"）を使って、適正なボーレートを以下の中から選択します。

B-0：（RC-601MKII接続時、初期設定）

B-1：　1,200 bps

B-2：　2,400 bps

B-3：　4,800 bps

B-4：　9,600 bps

B-5：　19,200 bps

B-6：　38,400 bps

仕様

定格

形式：　CDプレーヤー
使用ディスク：　コンパクトディスク（12 cm, 8 cm）
再生可能ディスク：　オーディオCD（CD-DA）、CD-R、CD-RW、
音声チャンネル数：　2チャンネル
量子化ビット数：　16ビットリニア／チャンネル
サンプリング周波数：　44.1 kHz
伝送レート：　4.3218 MB/sec
変調方式：　EFM
ピックアップ駆動方式：　対物レンズ駆動方式、光学式3ビーム
対物レンズ駆動方式：　2次元平行駆動方式
光源：　半導体レーザー
波長：　780 nm

ANALOG OUTPUTS

BALANCED（L, R）

コネクター：　XLR 3-31相当
規定出力レベル：　+4 dBu
最大出力レベル：　+24 dBu、+22 dBu、+20 dBu、+15 dBu（出力レベル設定による）
出力レベルキャリブレーション可変範囲：　0dB～－6dB以上
出力インピーダンス：　150Ω

UNBALANCED（L, R）

コネクター：　RCA
規定出力レベル：　－10 dBV
最大出力レベル：　+6 dBV
出力インピーダンス：　100Ω

PHONES

コネクター：　ステレオホンジャック
最大出力レベル　50 mW＋50 mW（32Ω負荷時）

DIGITAL OUTPUTS

AES/EBU

コネクター：　XLR 3-31相当
出力信号フォーマット：　IEC60958-4（AES/EBU）
出力インピーダンス：　110Ω
サンプリング周波数：　44.1 kHz、48 kHz（WORD同期時）

SPDIF

コネクター：　RCAピンジャック
出力信号フォーマット：　IEC60958-3（S/PDIF）
出力インピーダンス：　75Ω
サンプリング周波数：　44.1 kHz、48 kHz（WORD同期時）

その他の入出力

WORD SYNC IN

コネクター：　BNC
入力インピーダンス：　75Ω（自動ターミネート）
入力レベル：　TTLレベル
同期周波数範囲：　44.1 kHz±0.1%および48 kHz±0.1%

WORD SYNC THRU

コネクター：　BNC

REMOTE（PARALLEL）

コネクター：　37P D-SUBメス

REMOTE（SERIAL）

コネクター：　15P D-SUBメス
電気的特性：　RS-232C準拠

アナログ出力電気的特性

以下の特性はバランスおよびアンバランスのアナログ出力の仕様です。

再生周波数特性：　20 Hz～20 kHz, ±0.5 dB
S/N比：　102 dB以上（20 kHz LPF, A-weighted）
ダイナミックレンジ：　98 dB以上（20 kHz LPF, A-weighted）［1 kHz 最大出力レベル－60dB］
歪率（THD+N）：　0.008%以下（20 kHz LPF）［1 kHz 最大出力レベル］
チャンネル
セパレーション：　90 dB以上［1 kHz］
ワウフラッター：　測定限界値以下

その他の特性

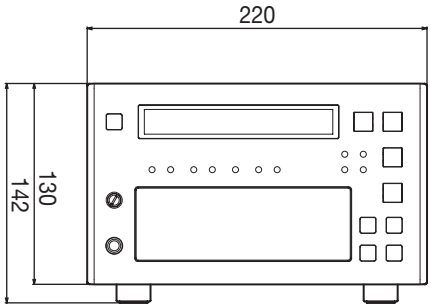
音声立ち上がり時間：　10 msec以内
アンチショック時間：　20秒

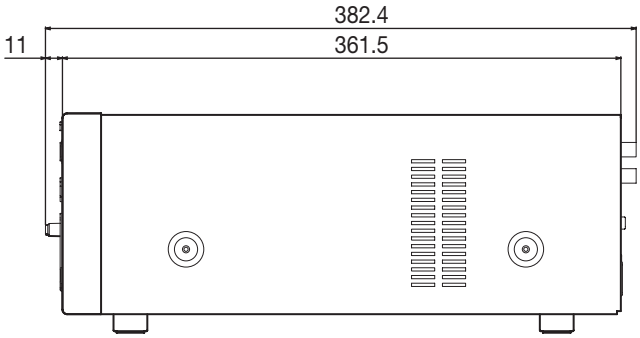
一般

電源：　AC100 V、50/60 Hz
消費電力：　24 W
外形寸法：　220 W×142 H×382.4 D（mm）（フット、突起部含む）
質量：　6.0 kg
動作温度：　5～35℃
設置時傾斜：　5度以内
付属品：　電源コード、取扱説明書、保証書

- 仕様および外観は改善のため予告なく変更することがあります。
- 製品の改善により、取扱説明書のイラストなどが、一部製品と異なることがあります。あらかじめご了承ください。

外形寸法図





エラーメッセージ一覧

使用中に以下のエラーメッセージが表示された場合、以下の対処を行なってみてください。

表示	内容	対処
ERR01	TOC READ Error	・ディスクに傷がある →ディスクを交換してください。 ・ディスクが汚れている →ディスクをクリーニングしてください。
ERR02	GFS Error	
ERR03	Focus Error	
ERR04	SUBQ Error	ディスクを交換してください。
ERR05	TRAY LOADING Error	トレイに異物がないか確認してください。
ERR06	SLED Error	電源を再投入してください。
ERR07	SYSTEM Error	
ERR08	MEMORY Error	

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム営業技術までご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、
土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～12:00/13:00～17:00です。

タスカム営業技術　〒180-8550 東京都武蔵野市中町3-7-3

電話：0422-52-5106 / FAX：0422-52-6784

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:00～17:00です。

ティアック修理センター　〒190-1232　東京都西多摩郡瑞穂町長岡2-2-7

市内通話料でOK ナビダイヤル

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

0570-000-501

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。
携帯電話・PHS・自動車電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。
新電電各社をご利用の場合、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。このような場合は、ご契約の新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-556-2280 / FAX：042-556-2281

■ 住所や電話番号は，予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ティアック株式会社

〒180-8550 東京都武蔵野市中町3-7-3
http://www.teac.co.jp/tascam/

Printed in Japan